

会員寄稿

測量設計業界に入って感じたこと

株式会社新日本コンサルタント
インフラマネジメント事業本部社会基盤部

Mitzi Alia Rifanisa
(ミティ アリア リファニサ)
インドネシア共和国出身



1. はじめに

京都大学を2019年に卒業し、株式会社新日本コンサルタントに入社してから1年半が過ぎました。

私は中学校の時からずっと日本に憧れ、日本に行きたいという気持ちから日本の大学に挑戦してみようと思いました。元々、絵を描くことが好きであり、建築学か土木工学を目指していました。色々な大学の入学方法を調べたところ、奨学金があり、土木工学の国際コースがある京都大学に決めました。大学では工学部地球工学科国際コースを通じ、土木の基礎的知識を身に付けました。

大学3年生の時に新日本コンサルタントのインターシップに参加し、そこで初めて建設コンサルタントという職業を知りました。そのインターンシップで建設コンサルタントでは今まで大学で勉強してきた知識を活かせると感じ、建設コンサルタントの職業に興味を持ちました。更に、新日本コンサルタントは母国であるインドネシアでもプロジェクトを行っていると聞き、新日本コンサルタントへの就職を決めました。

新日本コンサルタントに入社し、構造技術グループに所属しました。入社当時は、日本語が下手であることもあり、仕事の内容、仕事の範囲、様々な部分的な作業を学ばせてもらいま

した。2年目の今では1年目に行った作業を基に、少しずつ全体的な業務の流れを理解できるようになりました。

2. 仕事を通じて感じること

現在は2年目になりましたが、経験や知識としてはまだまだ浅く、わからないことや行き詰まることが多いです。その時は先輩方や上司の方々に丁寧に教えていただき、少しずつ進めるようになりました。本格的に業務を行って思ったことは、大学で理解した知識や身に付けた経験を活かすことができ、ただ理論や原理を理解し、計算するだけではなく、実行する際に色々なことを考慮しなければならないことがあると学びました。それだけではなく、大学では経験できない、勉強する機会もなかったことが沢山あり、毎日新たな知識が広がる感じがしています。

私が所属しているグループの主な業務は補修設計や橋梁設計ですが、橋梁点検・橋梁長寿命化計画の業務もあります。今まで経験した業務は補修設計と橋梁設計ですが、橋梁設計を行う際には橋梁位置の地盤状況、周辺状況、道路状況、交通量状況等、沢山の条件を考慮しなければならないことを知り、知識も経験もまだ浅いことを痛感しています。

人は生きていくだけで勉強し続けると、実感

しています。

3. 将来の展望

これまでは資料の作成や紙の上で整理する作業がほとんどですが、今後はコミュニケーション能力も身に付けていきたいと思い、小さなことからですが、外部の方々等とやり取りをさせていただいています。もっと上手に意見をお伝えでき、スムーズにやり取りできるように努めていきたいと思っています。

2年目ということもあり、経験した業務で施工が終わった案件はないので、自分が設計したものを実際に自分の目で見たことはありません。これから施工に入り、自分の設計したものが形になっていくことを楽しみにしています。

まだまだ勉強不足なところもあり、先輩や上司の方々に迷惑をかけることがあります。頼れる存在になれるようにこれからも頑張りたいと思います。

